

医療

健康

脳機能検査 より精密に

九州大のブレインセンター

者がやってくる。

検査は、九大病院の神経内科や脳外科だけでなく、耳鼻科、精神科、小児科、心療内科などの医師ら約三十人が担当。脳波計、頸部エコーなどの検査で神経細胞の異常の有無や動脈内の血液の流れを調べ、心理テストなども行っている。

また、各診療科が共有で使用する磁気共鳴画像装置(MRI)、コンピュータ断層撮影(CT)で脳の形の変化も把握。結果を総合的に判断して、アルツハイマー病、



九州大ブレインセンターに導入される脳磁場計測装置(MEG)

また、各診療科が共有で使用する磁気共鳴画像装置(MRI)、コンピュータ断層撮影(CT)で脳の形の変化も把握。結果を総合的に判断して、アルツハイマー病、

また、現在の検査レベルでは、脳機能の異常を

▼脳波計では限界

症状が出て、脳に複数の

また、現在の検査レベルでは、脳機能の異常を

▼脳波計では限界

症状が出て、脳に複数の

微弱な磁気測る 新機器導入へ

アルツハイマーなど早期発見も

認知症や脳卒中患者らの脳を検査する「九州大病院ブレイン(脳)センター」(福岡市東区)が、昨年四月の開

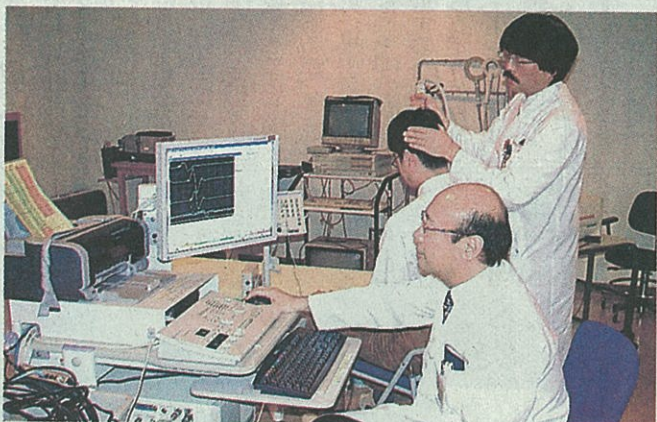
てんかん、筋萎縮性側索硬化症(ALS)などの早期確定診断を目指して

そこで、新年度に導入を予定しているのが、精度がミリメートル単位の最新の脳磁場計測装置(MEG)だ。

▼診療科の枠越え
「よく知っている人の名前が出てこない」「行な物忘れの症状に悩む患者

動を起す際に、もたもたしてしまう」。ブレインセンターには、こん

症やてんかん、脳卒中について、小宗静男・耳鼻咽喉科教授が脳と聴覚、発音の関係などについて、飛松省三・臨床神経



脳機能を調べる九州大ブレインセンターの一室。検査をより正確にするため、4月から新型の機器が導入される

九州大病院ブレインセンターは、脳の病気に関する最先端の治療法などを紹介する公開シンポジウム「脳の健康を守る」を、十七日午後三時五十分、福岡市中央区天神の西鉄ホールで開催する。

17日に脳の 公開シンポジウム

九州ブレイン センター

▼九州医療センター健康講座「声の健康」
15日午後1時半～3時、福岡市中央区地行浜の同センター外来棟3階講堂。講師は耳鼻咽喉(いんこう)科長の山本智矢氏、病棟副看護師長の古池佳代子氏。無料(予約不要)。092(852)0700、内線6155。
▼ファイナルステージを考える会定例会「がん患者の心の痛み」
17日午後1時半～4時、福岡市中央区荒戸3丁目の市民福祉プラザ。講師は九州がんセンターサイコロコロジ科医長の大島彰氏。1500円。清水クリニック=092(502)6767。
▼福岡徳洲会病院健康講座
19日午後1時半～3時40分、福岡市南区高宮3丁目のアマカス。①腰痛の新

しい治療(副院長・海江田令次氏)②高脂血症予防の食事(栄養管理室・一瀬幸絵氏)。無料(申し込み不要)。同病院=092(573)6622。
▼日本健康支援学会第14回ヘルスサイエンスセミナー「身近な認知症の予防と介護」
18日午後3時～5時、福岡市中央区舞鶴2丁目、あいいふ9階。講演は福岡大医学部第5内科教授の山田達夫氏、九州大医学部環境医学教授の清原裕氏、天神オアシスクラブ施設長の中島七海氏。無料(予約不要)。
▼在宅ホスピス講演会「在宅ターミナルケアの介護をホームヘルパー・訪問看護師・ケアマネジャー・診療所医師と一緒に考える」
24日午後2時～4時、福岡市東区箱崎2丁目の福岡リーセントホテル芙蓉の間。矢津クリニック院長の

矢津剛氏が講演。続いて討論。500円。申し込みは17日までに、よしかわ内科医院=電話092(681)8811、ファクス092(681)8088。
▼西南学院大公開講座「発達障害児の理解と支援—特別支援教育に向けて」
27日、3月2、6、9、13日の午後6時半～8時、福岡市早良区西新の同大。①特別支援教育—どう変わっていくか(福岡市発達教育センター主任指導主事・小関正利氏)②発達障害児の行動問題(社会福祉学科教授・野口幸弘氏)③発達障害と虐待—キレル子どもの対応(同助教授・安部計彦氏)④発達障害児の心理学的理解(同教授・井上哲雄氏)⑤発達障害児の児童精神医学(村田子どもメンタルクリニック・村田豊久氏)。5回で4000円。申し込みは16日までに学外連携推進室=電話092(823)3232、ファクス092(823)3249。

てきたらボタンを押し変形を伴わない初期のアルツハイマー病が見つかる可能性も高まるとされ、脳内のどの部分で情報が行き交っているかを、千分の一秒単位で把握できるという。これによって脳機能の異常を見つけ出す。
従来の装置は脳の一部分しか計測できなかったが、新型はセンサーが二百六十個あり、脳全体が一度に検査できる。精度も増すため、高次脳機能障害の原因となる損傷位置の特定だけでなく、脳の明確に区分けできるようになる。MEGの導入を担当する飛松省三・九大医学研究科臨床神経生理学教授は「苦痛もなく、安全な検査や手術ができるようになる」と期待している。
▼安全面でも利点
アルツハイマー病の診断の場合、患者に放射性物質を注射して、物質が脳のどの部分に集まるかを検査する方法がよく使われる。MEGでは放射性物質を使わずに検査ができる利点もある。
脳にできた腫瘍を摘出する際も、健康な部位が明確に区分けできるようになる。MEGの導入を担当する飛松省三・九大医学研究科臨床神経生理学教授は「苦痛もなく、安全な検査や手術ができるようになる」と期待している。

▼ご意見、情報をお寄せください

医療、健康に関するご意見や記事の感想をお寄せください。「異見医見」への投稿も募集します。紙上匿名は受け付けますが、氏名、連絡先を明記してください。あて先は〒810-8721(住所不要)西日本新聞社編集局医療・健康取材班。ファクス=092(711)6246。メール=med@nishinippon-np.jp

西日本新聞のホームページに「医療・健康」のページを公開しています。過去の特集記事もバックナンバーとしてあります。アドレスはhttp://www.nishinippon.co.jp/